

# THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

ロータリーに輝きを  
Light Up Rotary



寛容の心で、  
ロータリーの輪を広げよう

国際ロータリー会長 ゲイリー C. K. ホアン 2014～2015  
富津中央RC会長 若鍋 武良  
国際ロータリー 第 2790 地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12  
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

No.2377 第28回例会 2015. 1. 29 晴

会場:いち川旅館

点 鐘:若鍋武良 会長  
進 行:高島治雄 副SAA  
ソング:我らの生業  
お客様:俞 明鶴 様ご夫妻



## 会長挨拶

若鍋武良 会長



皆様こんにちは。お客様を紹介致します。君津在住の俞 明鶴様ご夫妻です。後ほど卓話をお願い致しますが、中国に関する豊富なご経験に基づ

いたお話をお聞かせ下さると伺っております。宜しくお願いいたします。

先週末千葉でオペラ・ビゼー『カルメン』を鑑賞しました。『カルメン』の舞台はヨーロッパのスペインです。カルメンはスペインという国を理解する上でのキーワード(ドン・キホーテ、闘牛、フラメンコなど)に挙げられています。かつて訪問したスペインの高校にはカルメンという名の教職員がおり、今でも文通しております。小説『カルメン』(Carmen)は、フランスの作家メリメの最高の傑作ですが、カルメンは、小説よりも歌劇とシネマを通じて世界の多くの人々に知られています。

〈オペラ『カルメン』のあらすじの一部〉19世紀、スペインのセビリア。連隊の伍長ドン・ホセは、故郷に帰って許嫁のミカエラと結婚することを夢見る真面目な男。そんなホセの前に、奔走なジプシー女カルメンが現れた。ホセを気に入ったカルメンは、男達の前で媚態をふりまきながらホセに近づき、アカシアの花を投げつけて去る。けんか騒ぎを起こして逮捕されたカルメンを見張るように命じられたホセは、カルメンに誘惑されて彼女を逃がし、営倉送りになってしまう。そこから事件が発展していきます。

小説の『カルメン』は、スペインを旅行中の考古学者が、ふとしたことから、今は獄中にある山賊(かつての連隊伍長)ドン・ホセを知り、彼の懺悔話からストーリーが始まります。名作です。

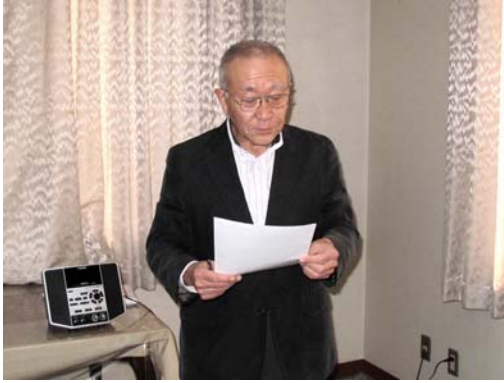
〒293-0042 富津市小久保2868  
さざ波館 Sazanami-kan  
2868 Kokubo Futtsu-shi Chiba-ken,  
Zip code 293-0042  
Tel.0439-65-3373 Fax.0439-65-3304  
URL <http://www.futtsuchuo-rotary.org>



小久保

## 幹事報告

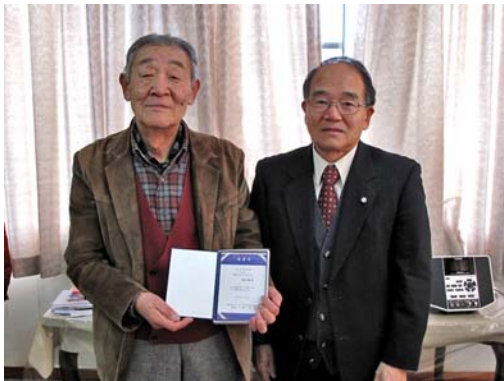
原田雅式 幹事



1. 君津地方小中学校書き初め展、助成金のお礼が届いております。(27年1月24日～25日、君津教育会館3F)
2. 米山記念奨学会、特別寄付金の明細書と米山功労者への感謝状及び表彰品が届いております。(第1回、米山功労者、平川恵敏会員、高島治雄会員)

## 米山功労者

高島治雄 会員



平川恵敏 会員

所用により欠席のため、後日。

## 外部卓話

俞 明鶴 様



こんにちは。俞明鶴と申します。中国黒龍江省延寿県生まれで、来日してもうすぐ17年になります。

私の出身地は日本と縁が深い地域です。特に延寿県のお隣の方正県は日本残留孤児が最も多い地域でもあります。小さい頃は、お年寄りから戦前のことについて色々と聞かされました。戦前、最初に日本軍が入った時のことです。ある日突然飛行機が飛んで来て、飛行機から物が落ちてきたようです。爆弾ではありませんでした。飴やマフラーなど食べ物と日常用品でした。

私は20歳で来日しましたが、日本文学に引かれ、日本古典文学を専攻しました。特に天皇について大変興味を持っております。天皇は日本において特別な存在です。日本文学史においても天皇家を除いたら日本文学がなかなか成立しません。

では、天皇という言葉の由来はなんでしょう？中国の伝説中、最も優れた八人の帝王、三皇五帝がいました。三皇は神に近く、五帝は聖人。さらに三皇は天皇、地皇、人皇に分かれ、天皇は最も優れた帝王でした。これが天皇という言葉の由来です。

日本において天皇の存在は、誰も挑戦できない権威の存在でもあります。いわゆる権威と権力の分離です。権利があっても必ず権威があるとは限りません。逆に中国は権力と権威が一体化しました。かつて毛沢東が銃から政権が生まれると宣言しました。

日本と中国の政権の正当性を比較してみましょう。日本は権威の頂点である天皇と権力の頂点である総理大臣の正統と正当を有します。中国共産党は、政権の正当性を主張するため、中国近代史を完全に歪曲化しています。中国国歌『義勇軍進行曲』は1935年に作られた抗日映画「風雲児女」の主題歌であります。内容は、奴隷になることを望まなければ立ち上がって(日本と)戦いましょうとのことあります。中国現政権の正当性には敵なる日本が常に存在するのです。

現在の中国は世界でFACEBOOKを使えない四つの国の一つです。その他の国は北朝鮮、キューバ、イランです。日本では、中国の国防予算が話題になっていますが、実にもっと恐ろしい予算があります。例えば、中国の2013年予算案で、国内の治安維持に充てる公共安全予算が7690億元(約14兆4

千億円)で7406億円の国防予算を上回った。公共安全予算は政府への抗議活動の予防や鎮圧、インターネット管理の強化などに投じる予算である。いわゆる中国の統治者にとって本当の敵は自国民なのです。

中国は、環境破壊を代価に経済発展をとげましたが、様々な後遺症に悩まされています。中でも特に酷いのは、文化の破壊です。中国共産党は、長年にわたって中国伝統文化を破壊し、共産党文化を創り上げました。共産党文化の核心は、中国共産党を正当化し、賛美することです。

最近、華僑の間で中国伝統文化の復活を目指す動きが起きています。最も代表的なのは、台湾を含む海外生まれの華僑のダンサーが中心の神韻芸術団です。2006年、一流の華僑系芸術家たちがニューヨークで集まり、神韻芸術団を結成しましたが、この数年東洋のルネサンスとして注目を浴びています。毎年100万人以上の来場客を誇り、台湾においては現国際ロータリー会長黄其光氏を含む多くのロータリアンも来場しました。日本でも約100ヶ所のロータリークラブで紹介されました。今年4月18日-21日、東京文化会館で上演されますので是非遣唐使がかつて観た中国宮廷のショーを楽しんでみてください！ (<http://ja.shenyun.com/>)



プロフィール

兪明鶴(ユ・メイカク)様 経営コンサルタント

1998年3月、来日。大阪大学文学部卒業。専攻は奈良時代の日本文学。

来日後、最初に読んだ小説が「伊豆の踊り子」、その中の「いい人はいいね。」という句に惹かれ、日本文学を専攻。在学中から、日中間の誤解を招く要素をテーマに多数講演。

ロータリークラブでの卓話、経営者クラブ、企業研修にて多数講演。

講演テーマは「漢字の成り立ち」、「報道だけではわからない中国の実情」、「孫子兵法から学ぶ講」など。

※ロータリークラブでの卓話実績

市原RC、松戸北RC、柏西RC、千葉西RC、船橋RC、船橋みなとRC、大宮RC、浦和RC、東京中央RC、東京目黒RC、東京東RC、東京西北RC、東京武蔵野RC、東京築地RC、東京池袋西RC、東京赤坂RC、浅草中央RC、東京江戸川中央RC、東京葛飾東RC、東京神宮RC、池袋RC、東京自由が丘RC、名古屋空港RC、名古屋東山RCなど

## ニコニコ BOX

渡辺哲夫 親睦担当委員

\*若鍋武良 兪明鶴さんをお迎えして

原田雅式 //

高橋裕之 //

小野恒靖 卓球全国大会の報告をさせて頂いて

\* >1,000 円 合計 5,000 円

## 出席報告

栗原典子 出席担当委員

区分	会員数	出席	欠席	MakeUp	出席率
今回	25/20	16	4		80.00%
前回	25/21	16	5		76.19%

## 投稿

### 1年間豆乳を飲み続けた結果

平野安照 会員

郵便局では、年に1回定期健康診断が有ります。

私は以前から、血液中のトリグリセライド(中性脂肪)の数値が高く、健康診断では要治療の判定を受けていました。

昨年の9月20日に受けた健康診断では、中性脂肪の数値が1439もありました。

トリグリセライド(中性脂肪)は150未満が正常値で、150~249の場合は、要経過観察、250以上の場合は、精密検査または治療が必要だと言われています。以前に900台の数値で、亀田病院の先生に「ここまで高い人も珍しい」と言われた事があります。さすがに1400台の数値は、身の危険を感



じたため、解決策を悩んでいたところ、豆乳に中性脂肪を下げる働きが有る事を知りました。

それから約1年、ほぼ毎日豆乳を飲み続けた結果、今年9月19日の健康診断では、トリグリセライドの数値は178と劇的な改善を遂げ、他の検査項目も軒並み改善しております。改めて豆乳の効果に驚くと共に、継続は力なりを実感できました。

## 彼とあの人の記憶

榎本守男 会員

「記憶」とは物事を覚えていることである。

「記憶」とは過去の経験の内容を保持し、後でそれを思い起こすことである。

私ももの心ついてからこれまで多くの人に出会い、様々な事を教わり、経験してきましたが記憶に残っているのはわずかなような気がします。

“人の記憶の精度はどうか、はたまた量はどれくらいあるのだろうか”と思いつつ、40年前の記憶の糸を手繰り寄せながら湧き上がるままに書いてみました。

それは小さな記憶のチップを丁寧に連結させる作業でした。人の脳には忘れることが出来ない記憶と忘れてしまいたい記憶が存在しますが、時間の経過によって欠落してしまいます。だから平凡な日常のメモリーなどは当然残っていません。自分の記憶を確認するため、残ってないはずの過去の記憶を求めてストーリーにしてみました。

昭和44年当時、私は西武池袋線富士見台駅徒歩15分の所にある4畳半一間のアパートで生活をしていました。そこから1年間高田馬場にある予備校に通っていました。私にとって浪人生活は決して辛くはありませんでした。かといって希望に満ちあふれてもいませんでした。上京の喜びは途方もなく大きく、一人暮らしの生活での新しい発見も多く、単調ではあるが浪人生活は充実していました。

浪人同士の友人は出来ないと聞いていましたが、予備校の席が偶然隣り合っていた彼とは、今も親交があります。彼は函館出身で、現役で東北の国立二期校に合格したが、入学せず上京し翌春に再起を期していました。当時はそれほど会話をしませんでした。どの大学を受験するかさえ、お互い適当に答えていました。

ところが偶然入学式で出会ったのです。彼は経済学部、私は経営学部でしたが、結局同じヨーロッパ研究部に入部し、それからの40年に及ぶ長い付き合いとなりました。

学生時代の記憶の中には彼との思い出が多くあります。ちょっとした偶然で出会い、時間の共有の中で年月をかけて腹心の友になったのだと思っています。

そのころ、もう一人のかけがえのない人にも出会いました。大学は246号沿いに位置し、まさに都会の喧騒の中にありました。正門からつながる銀杏並木、少し歩くと右手にチャペル、突き当りに鶯の絡まる図書館、左手に銀杏の大木、そこに校内の花岡山と呼ばれていた緑地がありました。ベンチが整然と並んでおり女子学生が腰を掛けて、おしゃべりをしている。そんな雰囲気のあるキャンパスでした。学生会館は4階建てで花岡山と246号に挟まれていました。2階の雑然とした廊下を中に進むとESCの部室がありました。その部屋で会ったのがその人です。

肩まで伸ばした黒い髪、朝の光を反射させて眩しいくらいでした。小麦色に焼けた肌をブランドのワンピースで身を包んでいる姿が鮮明に蘇ってきます。ニックネームは誰がつけたかマルクスと呼ばれていました。おそらく真剣にディベートする姿、知識の豊かさ、分析力などから経済学者のカール・マルクスと重なったんだろうと容易に推測できました。

発言するときは、ゆっくりと手で髪をかきあげ、目をキリッと開いて念を押すような話し方で議論に参戦し、論破していたのが強く印象に残っています。ちょっと驚くと「oh! no!」、困ったことがあると「oh! no!」が、口癖でした。都会的な新鮮な響きをこの抑揚の中に感じていました。

この時はまだこの人が伴侶になるとは思ってもいませんでした。

あれから40年、運命の糸に導かれて、今、かけがえのないこの人と此処で歩んでいます。記憶は人の成長と共に進化し脳によって美化されていると思います。だからこそ思い出は素晴らしいのではないのでしょうか。皆さんには、こんな野暮な記憶に付き合っただき有難うございました。